

# らいぶ LIVE 創 REATOR つくりえいたー

NO.67  
2013年9月  
研究広報誌

## 教育研究発表会 2013の お知らせ

### CONTENTS

- 2013 教育研究会開催にあたり……………1
- 2013 教育研究会各授業の PR……………2
- 学習紹介（国語科）：文字でおはなししたいな……………3
- 学習紹介（社会科）：つくろう！3C. COMスーパー……………4
- 学習紹介（国語科）：説明文の仕組みを知り，感想文を書こう……………5
- 学習紹介（理科）：4年生 電気のはたらき……………6
- 学習紹介（家庭科）：衣服を気持ちよく……………7
- 学習紹介（生活科）：あさがおもおげんきですか？……………8

## 「学びをデザインする子どもたち」～つなぐ・つむぐ・つくる～



### ◆ごあいさつ

今日、「学びの時代」といわれますが、では、子どもが学ぶということは、そもそもどのような営みを行うのでしょうか。また、その学びが、教師によってただ一方的に用意されるものではなく、子どもが学びの主体として、自主的に追究するものとして創り出されるためには、何が求められるのでしょうか。私たち附属小学校では、こうした問題意識から、これまで一貫して学びのあり方を問い続けてきました。

そして、今年度は、「学びをデザインする子どもたち～つなぐ・つむぐ・つくる～」をテーマに、教育研究発表会を開催することにいたしました。このテーマは、昨年度の「学びをデザインする子どもたち」という学びを自主的に創り出す主体としての子どものという研究課題を引き継ぎつつ、「つなぐ・つむぐ・つくる」というサブ・テーマを新たに設定することによって、私たち教師が、一人ひとりの子どもの興味・関心や課題意識を深くみとりつつ、彼ら・彼女らの学びをつなぎ、つむぎ出していく支援のあり方を明らかにしていこうとするものです。こうした新たなテーマ設定の下、公開研究授業を行うとともに、この間引き続きご指導いただいている、東京大学大学院教授の秋田喜代美先生のご講演を予定しています。

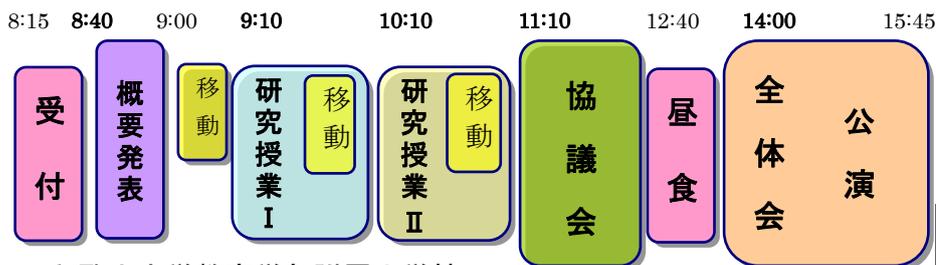
お忙しい折ではありますが、皆様お誘い合わせの上、多数ご参加いただきますようご案内申し上げます。

和歌山大学教育学部附属小学校長 船越 勝

期 日

平成 25 年 11 月 2 日（土）

日 程



講師  
★秋田喜代美先生

主催・会場  
後 援

和歌山大学教育学部附属小学校  
和歌山県教育委員会 和歌山市教育委員会 和歌山大学  
和歌山県市町村教育委員会連絡協議会 和歌山県連合小学校校長会  
岸和田市教育委員会 阪南市教育委員会 泉南市教育委員会 岬町教育委員会

# らいぶスクエア

年・組 教 科	授業者 単 元	研究発表会 各授業 P R
1-A 生活	中西 正子 あきであそぼう	秋を体いっぱい感じて、お気に入りの自然物を集めます。それらを使い、友だちとかかり合いながら夢中で遊びを創造していく姿を目指します。
1-B 算数	市川 哲哉 おおきさくらべ	課題解決のための「応答のある対話」を目指します。教える一教えられるではない対等なペアでの意見交換が「学びをデザインする子どもたち」の基になると考えています。
1-C 国語	湯浅 明菜 1C おはなしたんけんたい ぼく・わたしの「くじらぐも」	「くじらぐも」の世界で遊びながら、見えてくるもの、聞こえてくるもの、話したいことをふくらませていきます。29人で、1Cオリジナルくじらぐもの世界をつくります。
2-A 算数	小谷 祐二郎 分数	現行指導要領から2年生単元となった分数。子どもたちが初めて出合う分数を、大きさを実感しながら概念を獲得できるような授業を目指します。
2-B 音楽	内垣 美佳 森のカーニバル ～いろいろな音にしたいもう～	「森のカーニバル」を鑑賞して、素材や奏法などによって生み出される打楽器のおもしろい音色を味わいます。友達とたくさん交流し合いながら音の世界を広げていきます。
2-C 国語	小杉 栄樹 お手紙	アーノルド・ローベル作「ふたりはともだち」を並行読書しながら、がまくんとかえるくんの心温まる友情に迫ります。子どもたちの学び合いを充実させる言語活動を工夫していきます。
3-A 国語	宮脇 隼 モチモチの木	「モチモチの木」を入りにして、斎藤隆介の物語を味わいます。子どもたちの驚きや、はてなを大切に、斎藤隆介の世界にどっぷりと浸らせ、読みを深めていきます。
3-B 体育	則藤 一起 多様な動きをつくる運動 ～はっけよい3B 11月場所～	日本の国技でもある相撲。相撲のもつ基礎的な動きや基本的な技は、バランスの調整や重心の安定、スムーズな力の発揮といった“多様な動き”を含んでいます。このバランスとパワーを取り入れ、多様な動きをつくる運動を展開していきます。
3-C 社会	梶本 久子 つなぐ・防災 ～くらしを守る消防～	異学年・地域・未来へ…つなぐ・防災。消防署の学習を入りに防災に興味を持ち始めた子どもたちの考える等身大の防災です。今までの防災学習をさらにバージョンアップさせ、教室では熱意あふれる話し合いが繰り返されています。ここには「学びをデザインする子どもたち」がいます。
4-A 理科	西村 文成 見えないものを見てみたい！ ～ヒトの体のつくりと運動～	ヒトの体を外から見ることができませんが、中がどのようにになっているのかは見ることはできません。骨や筋肉のつき方を考えながらヒト型模型を作ることで可視化します。
4-B 算数	吉久 寛郎 面積	複合図形を長方形や正方形をもとにして求積します。様々な発見や考え方を交流し、互いに深め合い、工夫して求積することの楽しさを感じ得る授業を目指します。
4-C 図工	上田 恵 絵を見て話して感じて考えよう ～鑑賞を通して～	絵画作品を見て、想像を膨らませましょう。そして自分の想像をみんなで紹介し合い、絵を真ん中において自分やみんなを見つめましょう。みんなで鑑賞しあったら1人では見えなかった世界が見えてきます。
5-A 算数	北端 一喜 比べ方を考えよう	「どちらが混んでるかな？」子ども達にとって身近な題材から比べ方を考えていきます。自分の考えを説明したり話し合ったりする中で、単位量あたりの2つの考え方（2つの量の公倍数と「1当たり量」）のよさを探っていきます。
5-B 音楽	居澤 結美 ハンガリー舞曲 第5番 ～体も心もうつきき～	鑑賞と表現(リズムアンサンブル)を関連付け、子どもたちが純粋に“音楽を聴くことは楽しい！”“リズムアンサンブルをもっと楽しみたい！”と思える授業を目指します。
5-C 理科	馬場 敦義 もののとけ方 ～見えないものをイメージしよう！～	ものが水に溶けたときの規則性について調べ、実際にやってみたこととイメージ図で考えることで自然事象の本質をさぐり、科学的な見方・考え方を育てていきます。
6-A 体育	渡辺 圭 ひろってつないで 決めようアタック！	「自陣での守りから攻めへの意図的な組み立て」を工夫して楽しむネット型・ソフトバレーボールの授業です。どうすればうまく守ったり攻めたりできるのかという課題に対し、考えを出し合いながら、学びを進めていきます。
6-B 家庭	藤原 ゆうこ 大好き！〇〇ランチ	「魅力的なランチメニューってどんなメニュー？」毎日いただいている学校給食や日頃の食事メニューからヒントを探ります。そして、地域や人とのつながりを大切にしながら、みんなが食べたくなるような魅力的なランチメニューを考えます。
6-C 社会	矢出 大介 新しい日本へのあゆみ ～1人の日本人として～	日本の発展に貢献した先人や悲惨な戦争体験について学びを深めていった子どもたち。その学んだことを活かし、日本人の1人としての自覚をもって自分の育った国の未来について語り合います。課題に向かって真剣に話し合う姿を目指していきます。
6-C 理科	田村 和弘 水よう液の性質	理科好きになることを大切にしながら、水よう液の性質を探る学習を通じて科学的な思考力を育むことを目指します。主体的な学びの姿を促すための支援の方法を探ります。
1 2 F 算数	土岐 哲也 1年「かたちづくり」 2年「三角形と四角形」	操作活動をとおして、発見したことを交流しあい、図形の見方を深められればと思います。また、低学年なりに主体的に学び合う姿も見て頂きたいと考えています。
3 4 F 理科	中西 大 3年「ものと重さ」 4年「もののあたたまり方」	「もの」を共通のテーマとして、科学的な見方・考え方を育てようと考えています。また、中学年の複式において子どもたちが主体的に学び合えるため、教師がどのようにみとり、どのように支援する必要があるのか考えていきたいと思っています。
5 6 F 国語	北川 勝則 5年「大造じいさんとガン」 6年「やまなし」	作者の他作品や作者の伝記を読むことで、作者の伝えたいメッセージを考える学習を、子どもたち主体で進めていきます。その学びをどう支援するかを提案します。
5-A 音楽	江田 司 “LET IT BE”	思いや意図・鑑賞と表現の関連を図った本校6年生定番の授業を5年生で紹介します。ビートルズの名曲で音楽の仕組みを学びます。 *公開授業として行います。

文字で おはなししたいな  
～1年生の「書く」～

国語科  
1年C組担任  
湯浅 明菜



「あのねえ」「みてみて」毎日、自分のことを話したくてたまらないといった様子の1年生。そんな子どもたちは入学してひらがなを学習し、言葉や文を長く書けるようになってきました。そのことによって、自分の思いを表現する方法がより広がりました。「早く、ひらがな全部習いたい」「かたかなや漢字は、まだかな」と書くことを楽しみにしています。

小学校入門期での「書く」を意識し、次のようなことを大切に取り組みました。

- (1) 書くときにはテンプレートとなる型を示すこと。型に当てはめながらもそれぞれの思いを表せるかは、何を書くかという題材に左右されます。
- (2) 自然と思いが湧いてくるような題材・課題を設定すること。
- (3) 書く前に話すことで言葉を引き出すこと。
- (4) いいところを大いにほめ、全体で共有すること。

○一文を書く

まずは、一文（主語・述語を使って）を書く経験をたっぷりと積んでおくことで、やがて文をつなげて文章や詩を書く力へとつながっていきます。

「が」をつかおう。（『はなのみち』）

- ・ちょうが います。
- ・はさみむしが います。

「□がいます。」という型の中で考えて、「が」の使い方を学びます。

「は」「を」「へ」をつかおう

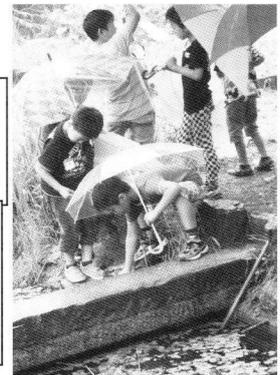
- ・わたしは おえかきを する。
- ・おとうさんは しごとを する。
- ・ぼくは となりのへやへ いく。
- ・とらは どうぶつえんへ つれられる。

～へ「いく」、～を「する」と書く子が多い中、その他の言葉を使った文を取り上げ、多様な言葉が使えることも学習できました。

子どもが考える部分を増やしていきます。

○「あめのおさんぽ」

初めての生活作文は、一緒に経験したことについて書きました。雨が降った日に外で遊び、雨のお散歩のことを教えてほしいと投げかけました。また、「あめのおさんぽ」という題を示し、お話には「題」があること、題は文にしなくていいことを学習しました。音、におい、感触、風景、生き物・・・五感でとらえたものを、一気に書き出していました。



かさをさしているとき ざあときこえて びっくりしたよ。  
かげのところに行ったら なんかもめがすくなくて ふうとおもいました。  
いけのみすが まえみたよりいっばいだったよ。

雨の、おさんぽをしたよ。雨のにおいがしたよ。雨にぬれつめたかったよ。ババババンと、いうおとがしたよ。ぼくは大雨がだいすきだよ。雨でつめたかったけどぬれてたのしかったよ。雨のおさんぽはたのしかったよ。ぼくぬれたかったんだよ。はれの日も雨の日もだいすきだよ。雨は、やっぱりつめたいよ。

○「5・7・5で あそぼう」

まずは、最初の5字を「かぶとむし」「てをつなぐ」に指定しました。そうすることで、何を題材にすればいいかわからず立ち止まることなく、5・7・5でことばをつなぐことに集中できました。その後、全体で発表し合いました。みんなの中からはいろいろな作品ができあがる楽しさや、1字ちがうだけでも意味が変わることに気づくことができました。ここまでくると「全部自分で考えて作りたい！」という声は自然と出て、楽しい作品がたくさんできました。

- ・かぶとむし いっばいたべて そだってね
- ・かぶとむし くわがたむしと たたかった
- ・かぶとむし きのしるあまい きいている
- ・てをつなぐ こころもつなぐ みんなとよ
- ・てをつなぐ みんなつないで たのしいよ
- ・てをつなぐ つないでいると あったまる
- ・いつのまに きれいなはなが さいていた
- ・にゅうがくしき るんるんたのしい いちねんせい

## つくろう！3C.COMスーパー ～わたしたちのくらしと商店～

社会科  
3年C組 担任  
梶本久子



これからの社会は市民がこれまで以上に主体的に参画することが求められています。そのためには、地域との主体的なかかわりをもととする子どもを育てることが必要です。そこで、地域との主体的なかかわりをもととする子ども、すなわち地域を愛する子ども（個）を育てたいと考えました。そして、今年度も、「和歌山」にこだわった学習をするために「ふるさと和歌山つくるプロジェクト」を計画しました。「スーパーマーケット」を入口として、1年間に多くの教材と出会い、ふるさと和歌山（地域）へ働きかけ、地域を愛し誇りをもつ個に育てていきたいと考えています。子どもたちの社会科の学習の第一歩となった「スーパーマーケット」の単元。その取り組みの様子やそこで見えてきた子どもの変容を紹介します。

### ■ つくろう3C.COMスーパー ～わたしたちのくらしと商店～

#### ◎3年生らしい学び方を



教室の中央に、子どもたちが考える理想の「3C.COMスーパー」を再現し、商品を並べました。スーパーマーケットについて学習する動機を高め、具体的なものと自己との関わりを基盤にして学習を進めていくことを促すという点で、社会科の入門期にある3年生にはわかりやすいのではないかと考えました。

子どもたちは、常にスーパーマーケットの商品や並べ方などを意識しながら取り組みました。自ら学び、調べ、考える力を育成するためには、1年間の中で、社会的事象を作業的・体験的な学習や問題解決学習等を通して、学び方を身に付けるような学習の工夫を考えています。そして、学び方を学ぶために、1年を通し、発表・インタビュー・『調べ方ガイドブック』など、3年生の発達の段階にそった学び方カードを中心に細かく

指導しています。本実践でも、実際に自分の地域や校区のスーパーを自主的にインタビューに行く子が増え、「足で稼いだ」調べ学習ができました。

#### ◎親近感、共感をもたせ、一人一人に主人公意識を

校区のスーパーM本店の店長から「お客さんが減ってきているのでお客さんを増やすいい方法はないかな」という話をしてもらうことによって、自分たちの調べ学習や話し合いの結果が直接伝わるといふ思いをもち、よりM本店に親近感、共感をもつことができました。学んだことをもとに「3C.COMスーパー計画書」作りへと進ませ、単元の終末には「3C.COMスーパー」を開き、これまでの学習を総括していきました。また、M本店のかざりつけや呼びこみなども経験することができました。「一人ひとりが担当をもって、3C.COMスーパーをつくったり、M本店のお手伝いをしたりする」という思いで取り組むことで、ひとり調べの必要性、目的意識や切実感をもち、また、自分の生活を振り返ることができました。



#### 単元の終末に（作文より）

見学やインタビューも面白いし、帰り道にインタビューにいつでもみんな優しく答えてくれるから社会の勉強は楽しいです。スーパーMに行って、開店前から飾り付けやPOP、ちらしをいっぱい用意しました。

呼び込みをしたら、行列になるくらいお客さんが来てくれて本当に本当にうれしかったです。いっぱい調べて、みんなで考えて話し合いをすれば、周りの人はわかってもらえるんだなと思いました。一生懸命調べたからスーパーMも好きになったし、社会も好きになったし、話し合いも好きになりました。次も楽しみです。

作文にあるように、子どもたちのM本店に対する思いは強く、単元が終わった今も学習を継続していると感じる場面が多くあります。今後も、社会科の学習で学んだことを生かして、地道に、地域学習を広げ、続け、深めていくことが地域DNAとなると考えています。

今、本校では避難場所のための工事が行われています。11月の研究発表会では、そういった身の回りの防災、和歌山の防災について「つなぐ・防災」をテーマに熱く話し合います。そして、3年生ならではの切実感のある防災教育に迫りたいと思っています。ぜひ、ご覧ください。

## 説明文のしくみを知り 感想文を書こう 「イルカのねむり方」「ありの行列」

国語科  
3年A組 担任  
宮脇 隼



### 説明文が好きな子を育てる

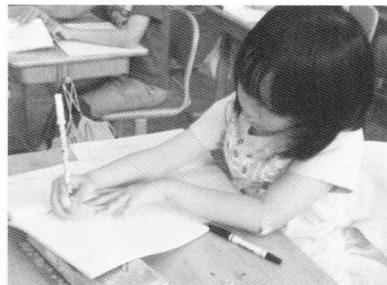
#### 【教材との出会いの工夫】

子どもたちが、教材を自分に引き寄せて主体的に学習を進めていけるように、教材との出会いを工夫しました。イルカは水族館の人気者、ありは地面を見ればすぐに見つけることができ、子どもたちにとっては身近な生き物です。しかし、イルカやありの生態をくわしく知っている子はほとんどいません。そこで、イルカやありへの興味を深めたり、積極的にひとり学びを進めたりするように、教室にありの巣や、イルカの写真・映像などを置き、身近で手に取れるような出会いを演出してみました。子どもたちは「イルカ」と「あり」という生き物の不思議な世界に浸ることができたと思います。



#### 【つけたい力の明確化】

子どもたちが感想を書くときに、自分の心に残ったところだけを書いて終わってしまうことが多くあります。もちろんそれでもいいのですが、本単元では、文章全体を通して感想が書ける子を育てたいと考えました。そのために、文章全体の構成を知って、それぞれを内容に分けて読むことが大切になります。そして、その分けられた内容ごとに、小さな感想を書き、それを最終的にまとめ、ひとつの感想文としました。そうすることによって、子どもたちは内容だけでなく、筆者の文章構成についても感想文で書くことができると考えました。



#### 【単元を貫く言語活動】

言語活動を充実したものにしていくためには、単元を貫いて言語活動を位置づける必要があります。この単元では、「感想文を書き、友だちと交流する」という言語活動を設定しました。子どもたちが全体を見通したり、比較することの大切さを意識したりすることによって、変容が見られました。また、互いの意見を交流することでグループ活動に広がりや深みがありました。

次に、その感想文を一部紹介します。

### しくみを知ることで広がる感想文

ぼくは、ありの行列で、ありっておしりからとくべつなえきを出して行列をつくっているんだなと思いました。イルカのねむり方とくらべてにているところは、どちらの作者も動物や虫やいろいろなものを研究している人の調べたことや考えたことを二人の作者は書いていました。

Aくんが、感想に書いていたことを読んで、ありの帰る道は行く道とちがうという考えにおどろきました。

この感想は、最後に書いた感想の一部です。感想には「あり」の感想だけではなく「研究者」についての内容も書かれていました。また「イルカのねむり方」と「ありの行列」とを比べ、二つの教材についての視点で書かれています。この単元を通して、本文を内容で細かく分け、それぞれに感想を書くことで、一部の心に残った部分で感想を書くのではなく、全体を見通した感想文を書けることができたと思います。

研究発表会では、物語文のしくみに迫っていこうと思います。教材は「モチモチの木」です。文章のしくみを学び、その他の作品と読み比べ、「斉藤隆介博士」をめざし、学習を進めていきたいと思っています。

## 4年生 電気のはたらき ～可視化すること～

理科  
4年A組担任  
西村 文成



理科の学習において、「実感を伴った理解」ができるようにしようということを大切にしています。そのためにまず、対象としっかり触れ合うことです。植物・動物を手にとって観察する、実験道具を使っている試すといった対象との出会いを大切にします。そうすることで子どもたちの興味関心を高め、「ふしぎだな?」「なぜ?」という疑問・課題が生まれてくると考えています。

4年生「電気のはたらき」という単元での「電流」という直接目には見ることができない対象を可視することで実感を友合った理解ができるようにしようとした実践を紹介します。「電流」は目には見えないという面で、子どもたちにとっては、理解が難しいと予想されます。モーターカー製作キットを一人一人に持たせることでモチベーションを高め、少しずつ実験に使う材料を増やしていくようにしました。教科書ではモーターカーを最初に仕上げてしまい、モーターカーで遊ぶ中で、いろんなことを発見するという方法で進めていきましたが、製作途中で接触不良や部品欠損といったトラブルが多発することが予想されたので、今回はまず豆電球と乾電池での回路づくりから始めました。モーターカー製作は最後までとっておきました。子どもたちからは「先生、まだモーターカー作れへんの」という声が何度も聞かれました。楽しみは最後までとっておく方がいいようです。



1人に1つの対象物

電流の大きさを実感するにはどうしたらいいのだろうと考えていました。教科書では、モーターカーの速さやモーターの回る速さで実感させるようになっていきましたが、何か物足りなさを感じました。モーターカーを電池の数やつなぎ方で何度も走らせると、直接比較ができません。2台用意して競争させるとわかりやすいですが、地面やタイヤの転がり抵抗なども影響されてきます。そこで、モーターにプロペラを取り付けて飛ばすという方法で、電流の大きさを実感させようと考えました。それに、乾電池の極を反対にするとモーターが反対に回り、プロペラが上に向かって飛ばないので極によるモーターの回転方向に気づくこともできます。課題が決まりました。

### ◎ プロペラを高く飛ばすにはどうすればいいのだろう?

研究授業では、「プロペラを高く飛ばすにはどうすればいいのだろう」という課題を与えました。子どもたちから「モーターを速く回せばいい」という答えがすぐに返ってきました。そこで、「じゃあモーターを速く回すにはどうすればいい?」とたずねました。この質問が野暮でした。教師の乾電池の数やつなぎ方へ導きたいというエゴが出てしまったのです。プロペラを高く飛ばす方法を考えれば、必然的に電池の数を増やす方向に行っただけです。一言多かったために、授業がプロペラを高く飛ばすのか、モーターを速く回すのか混乱してしまいました。でも、子どもたちはプロペラを高く飛ばすことに夢中になって取り組みました。乾電池を1本、2本、3本と増やし、乾電池が多いほどプロペラが高く飛ぶことに気づくことができました。1人1つの対象物を使ったため、かなりぐちゃぐちゃとしてしまい、スムーズに進まず問題点もありました。研究授業の次の授業で電流計を用いて、電流の大きさを測ることで、目で見て電流の大きさを確認することができました。



書画カメラで視覚的に伝える

今回の研究授業を通して、やはり1人1つの対象物を与えるということは、子どものモチベーションを高い状態で保つことができると感じました。目に見えない対象であった「電流」を視覚的に捉えられるプロペラを飛ばすという活動を入れることで、実感を伴ったのではないかと考えている。子どもたちが「すごい!」「不思議!」と感動しながら学べるような理科の授業をこれからも工夫していきたいと思っています。

## 衣服を気持ちよく

～生活を科学し、必要性を実感、生活へつなぐ～

〔家庭科〕

6年B組 担任

藤原 ゆうこ



### ◇布ウォッチング～生活を科学する～◇

本題材では、自分の生活を振り返り、衣服の着方や手入れの仕方に関心をもって生活の自立への一歩につながることをねらいの1つとして取り組みました。

子どもたちの実態をアンケート調査すると、衣生活に関する意識は低く、手入れはもちろんのこと、朝の身支度の際の衣服を選ぶこともすべて保護者任せという子どもが半数をこえていました。また、学校生活の様子では体操服を何度も使用しているにもかかわらず1週間以上学校へおいたままの状態の子ども、上靴を何週間も洗わずに放置している子どもが何人も見られるという実態でした。

そこで、まず「布」に関心をもち布と空気の関係に着目することで、新しい視点を子どもたちにもたせ、涼しい着方や暖かい着方、衣服の汚れと手入れ等についての学習をすすめていきたいと考えました。



紙・ビニルで衣服を作り、布の衣服と比較することで、布の特製を考える



虫眼鏡で布をウォッチング



織物構造を利用したミサンガ作り



小物作りを利用して、布の構造を実感

### ◇布の構造を実感し、生活へつなげる◇

上の写真のように、観察や小物作りを通して、布に主に「織物」構造と「編物」構造があること、布にはすきまがあり、空気が含まれていること、吸水性、伸縮性という性質があり、洗濯することで繰り返し利用できること等から衣服に適していることに子どもたちは気付きました。そして、衣服の空気の流れを考えることで、涼しい着方について考え合うことができました。冬に予定している“暖かい着方”を考える学習にもつなげていきたいと考えています。

また、洗濯実習につながる“衣服に付着した汚れ”について、学校での子どもたちの実態から“目に見える汚れ”と“目に見えない汚れ”について考える学習を行いました。右の写真のような見た目には違いが分かりにくいですが、1枚は着用済みの物、もう1枚は洗濯後の物を用意し、違いを見つける方法を考えました。布のくたびれ具合や色、においなど、条件を出し合いながら、子どもたちはどちらが着用済みの物か予想し合いました。

子どもたちにとってたいした違いはないように見えた2枚のTシャツですが、汗に反応する“ニンヒドリン溶液”を吹きかけると、着用済みのものは紫色に変色。子どもたちは、目には見えていなくても、着用した物には汚れが付着していることを実感し、生活を見つめ直すよききっかけとなり、手洗いによる洗濯実習へとつなげていきました。



## あさがおもげんきですか？ ～楽しんで観察することをわがって～

生活科  
1年A組 担任  
中西 正子



小学校生活初めての夏休みを迎えた1年生の子どもたち。1学期に育てたあさがおを家に持ち帰り、お世話と観察を続けます。そんな子どもたちにあさがおの暑中見舞いを



出すことにしました。成長の順に写真を並びかえるもので、夏休み中も楽しくあさがおの観察をさせるのがねらいです。

8月1日、登校日。子どもたちはどんなことばでその答えを表現しようとするのか、わくわくしながら教室で登校を待っていました。

「先生これであって？」と写真の隣の空白に順を書いて持ってくる子。「すごいねえ。」と花丸をつけて返してやりました。はがきを持ってきていること、考えたなあと思いました。

また、「とても簡単だったよ。左の上にあった写真が1番でね・・・それから真ん中でしょう・・・。」と写真の配置を覚えて自慢げに話してくれる子。これにも驚きです。

一人が話し出すと、「ぼくにもはがき届いたよ。それからね、種がね、もうね、いっぱいとれたんやで。」「中からシャリって3個か4個ぐらいでくるんよ。」「私とこはまだ花がね、毎日咲くんよ。前からおうちで育ててたのも咲いてる。」と、次から次へと話が進みます。

みんながそろったところで、6枚の拡大写真を黒板にはりました。「順にはってくれるかな。1枚ずつお話をしてもらいますよ。」と投げかけました。「いもむしみたいなかたちのこれが一番です。」「そうそうつぼみ！！」

次へいこうとしたその時、1番は左の下の写真だという子が出てきました。「全部が緑のが一番でね、ちょっと赤くなって（つぼみ）、そのあと花が開いて、おしまいに茶色になるんよ。」この発言が子どもたちの意欲をかき立てました。「ぼくは違うと思うよ。茶色いのはね、かれてるの。そのちょっと前がT君の言った緑のやつ。」「ぼくもね、見てたからそうだと思う。」「これはね（写真左下）、花のかれたのがついてるん、とれたらこの緑のやつになるんよ。」「おひさまみたいなのは熟してるっていうんよ。」「緑のやつも中見たら、種が入ってたで。」「・・・このように1枚のはがきから子どもたちのことばで気づきをつなげることができました。

帰りのあいさつの後も、家のあさがおの様子を話しにくる子がいました。自宅には右のような暑中見舞いが続々と届きました。夏休み明けにはあさがおの写真集を見せてくれる子もいました。

一枚のはがきが主体的に観察をし、気づきを表現しようとするきっかけになったのではと思います。今後も自ら楽しんで学ぶ子を育てていきたいです。



### From Editors

『らいぶ・創りえいた一』も12年目を迎えました。「生き生きと本物を創り出すひと」という意味を込めています。本校ホームページにはカラー版を掲載しています。

ご意見・ご感想をお寄せ下されば幸いです。

編集委員：居澤，小杉，上田，則藤，中西正，田村

### 和歌山大学教育学部附属小学校

〒640-8137

和歌山市吹上1丁目4番1号

TEL (073) 422-6105

FAX (073) 436-6470

URL <http://www.aes.wakayama-u.ac.jp>

E-mail [fuzoku@center.wakayama-u.ac.jp](mailto:fuzoku@center.wakayama-u.ac.jp)